校異源氏物語・野わき

中宮の御まへに秋の花をうへさせ給へることつねの年よりもみところおほくいろくさをつくしてよしあるくろきあかきのませおゆひませつゝおなしき花のえたさしすかたあさゆふ露のひかりもよのつねならす玉かとかゝやきてつくりわたせるのへの色をみるにはた春の山もわすられてすゝしうおもしろく心もあくかるゝやうなり春秋のあらそひにむかしより秋に心よする人はかすまさりけるをなたゝる春のおまへのはなそのに心よせし人〻又ひきかへしうつろふけしき世のありさまにゝたりこれを御らむしつきてさとゐしたまふほと御あそひなともあらまほしけれと八月はこせむはうの御き月なれは心もとなくおほしつゝあけくるゝに此花のいろまさるけしきともを御らむするにのわきれいのとしよりもおとろ　くしく空の色かはりてふきいつはなとものしほるゝをいとさしも思しまぬ人たにあなわりなとおもひさはかるゝをまして草むらの露の玉のをみたるゝまゝに御心まとひもしぬへくおほしたりおほふはかりのそては秋の空にしもこそほしけなりけれくれゆくまゝにものもみえすふきまよはしていとむくつけゝれはみかうしなとまいりぬるにうしろめたくいみしとはなのうへをおほしなけくみなみのおとゝにもせむさいつくろはせ給ひけるおりにしもかくふきいてゝもとあらのこはきはしたなくまちえたる風のけしきなりおれかへり露もとまるましくふきちらすをすこしはしちかくてみたまふおとゝはひめ君の御かたにおはします程に中将の君まいり給ひてひむかしのわたとのゝこさうしのかみよりつまとのあきたるひまをなに心もなくみいれ給へるに女房のあまたみゆれはたちとまりてをともせてみる御屏風もかせのいたくふきけれはをしたゝみよせたるにみとをしあらはなるひさしのおましにゐ給へる人ものにまきるへくもあらすけたかくきよらにさとにほふ心ちして春のあけほのゝかすみのまよりおもしろきかはさくらのさきみたれたるをみる心ちすあちきなくみたてまつるわかかほにもうつりくるやうにあい行はにほひちりてまたなくめつらしき人の御さまなりみすのふきあけらるゝをひと　くをさへていかにしたるにかあらむうちわらひたまへるいといみしくみゆはなともを心くるしかりてえみすてゝいり給はす御まへなる人〻もさま　くにものきよけなるすかたともはみわたさるれ

とめうつるへくもあらすおとゝのいとけとをくはるかにもてなし給へるはかくみる人たゝにはえ思ふましき御ありさまをいたりふかき御心にてもしかゝることもやとおほすなりけりと思ふにけはひおそろしうてたちさるにそにしの御方よりうちのみさうしひきあけてわたり給ふいとうたてあはたゝしきかせなめりみかうしおろしてよをのこともあるらむをあらはにもこそあれときこえ給ふをまたよりてみれはものきこえておとゝもほゝゑみてみたてまつり給ふおやともおほえすわかくきよけになまめきていみしき御かたちのさかりなりをんなもねひとゝのひあかぬことなき御さまともなるをみにしむはかりおほゆれとこのわた殿のかうしもふきはなちてたてるところのあらはになれはおそろしうてたちのきぬいまゝいれるやうにうちこはつくりてすのこの方にあゆみいて給へれはされはよあらはなりつらむとてかのつまとのあきたりけるよといまそみとかめたまふとしころかゝることのつゆなかりつるをかせこそけにいはほもふきあけつへきものなりけれさはかりの御心ともをさはかしてめつらしくうれしきめをみつるかなとおほゆ人　くまいりていといかめしうふきぬへきかせにはへりうしとらのかたよりふき侍れはこの御まへはのとけきなりむまはのおとゝみなみのつりとのなとはあやうけになむとてとかくことをこなひのゝしる中将はいつこよりものしつるそ三条の宮に侍つるをかせいたくふきぬへしと人〻の申つれはおほつかなさにまいり侍つるかしこにはまして心ほそくかせのをとをもいまはかへりてわかきこのやうにをち給めれは心くるしさにまかて侍なむと申給へはけにはやまうて給ひねおいもていきて又わかうなることよにあるましき事なれとけにさのみこそあれなとあはれかりきこえ給てかくさはかしけにはへめるをこのあそむさふらへはと思たまへゆつりてなむと御せうそこきこえ給ふみちすからいりもみする風なれとうるはしくものし給ふ君にて三条の宮と六条院とにまいりて御らむせられ給はぬ日なしうちの御ものいみなとにえさらすこもり給へき日よりほかはいそかしきおほやけことせちゑなとのいとまいるへくことしけきにあはせてもまつこの院にまいり宮よりそいて給ひけれはましてけふかゝる空のけしきによりかせのさきにあくかれありき給ふもあはれにみゆ宮いとうれしうたのもしとまちうけ給てこゝらのよはひにまたかくさはかしき野わきにこそあはさりつれとたゝわなゝきにわなゝき給おほきなる木のえたなとのをるゝをともいとうたてありおとゝのかはらさへのこるましくふきちらすにかくてものし給へる事とかつはのたまふそこらところせかりし御いきをひのしつまりてこの君をたのもし人におほしたるつねなきよなりいまもおほかたのおほえ

のうすらきたまふことはなけれとうちのおほとのゝ御けはひはなか　くすこし
うとくそありける中将よもすからあらき風のをとにもすゝろにものあはれなり
心にかけて恋しと思人の御事はさしをかれてありつる御おもかけのわすられぬ
をこはいかにおほゆる心そあるましき思ひもこそゝへいとおそろしきことゝみ
つからおもひまきらはしこと　くに思ひうつれとなをふとおほえつゝきしかた
ゆくすゑありかたくもものし給ひけるかなかゝる御なからひにいかてひんかし
の御方さるものゝかすにてたちならひ給つらむたとしへなかりけりやあないと
をしとおほゆおとゝの御心はへをありかたしと思ひしり給人からのいとまめや
かなれはにけなさをおもひよらねとさやうならむ人をこそおなしくはみてあか
しくらさめかきりあらむいのちのほともいますこしはかならすのひなむかしと
おもひつゝけらるあか月かたにかせすこしゝめりてむらさめのやうにふりいつ
六条院にははなれたるやともたふれたりなと人〻申かせのふきまふほとひろく
そこらたかき心ちする院に人〻おはしますおとゝのあたりにこそしけゝれひん
かしのまちなとは人すくなにおほされつらむとおとろき給ひてまたほの　くと
するにまいり給みちのほとよこさまあめいとひやゝにふきいる空のけしきもす
こきにあやしくあくかれたる心ちしてなに事そやまたわか心に思ひくはゝれる
よと思ひいつれはいとにけなき事なりけりあなものくるおしととさまかうさま
に思つゝひんかしの御方にまつまうてたまへれはをちこうしておはしけるにと
かくきこえなくさめて人めしてところ　くつくろはすへきよしなといひをきて
みなみのおとゝにまいり給へれはまたみかうしもまいらすおはしますにあたれ
るかうらんにをしかゝりてみわたせは山の木ともゝふきなひかしてえたともお
ほくおれふしたり草むらはさらにもいはすひはたかはら所　くのたてしとみす
いかいなとやうのものみたりかはし日のわつかにさしいてたるにうれへかほな
るにはの露きら　くとして空はいとすこくきりわたれるにそこはかとなく涙の
おつるををしのこひかくしてうちしはふき給へれは中将のこはつくるにそあな
るよはまたふかゝらむはとておき給なりなに事にかあらんきこえ給ふこゑはせ
てをとゝうちわらひ給ていにしへたにしらせたてまつらすなりにしあか月のわ
かれよいまならひたまはむに心くるしからむとてとはかりかたらひきこえたま
ふけはひともいとをかし女の御いらへはきこえねとほの　くかやうにきこえた
はふれ給事のはのおもむきにゆるひなき御なからひかなときゝゐたまへりみか
うしを御てつからひきあけ給へはけちかきかたはらいたさにたちのきてさふら
ひ給ふいかにそよへ宮はまちよろこひ給きやしかはかなきことにつけても涙も

ろにものし給へはいとふひんにこそ侍れと申給へはわらひ給ていまいくはくもおはせしまめやかにつかうまつりみえたてまつれ内のおとゝはこまかにしもあるましうこそうれへ給しか人からあやしうはなやかにをゝしきかたによりておやなとの御けうをもいかめしきさまをはたてゝ人にもみおとろかさんの心ありまことにしみてふかき所はなき人になむものせられけるさるは心のくまおほくいとかしこき人のするのよにあまるまてさえたくひなくうるさなから人としてかくなむなき事はかたかりけるなとの給ふいとおとろ　くしかりつるかせに中宮にはかはかしき宮つかさなとさふらひつらむやとてこの君して御せうそこきこえたまふよるのかせのをとはいかゝきこしめしつらむふきみたり侍しにおこりあひ侍ていとたえかたきためらひはへるほとになむときこえたまふ中将おりてなかのらうのとよりとをりてまいり給ふあさほらけのかたちいとめてたくおかしけなりひんかしのたいのみなみのそはにたちて御前のかたをみやり給へはみかうしまたふたまはかりあけてほのかなるあさほらけのほとにみすまきあけて人〳〵ゐたりかうらんにをしかゝりつゝわかやかなるかきりあまたみゆうちとけたるはいかゝあらむさやかならぬあけほのゝほといろ　くなるすかたはいつれともなくおかしはらはへおろさせ給てむしのこともに露かはせ給なりけりしをんなてしこゝきうすきあこめともにをむなへしのかさみなとやうの時にあひたるさまにて四五人つれてこゝかしこのくさむらによりていろ　くのこともをもてさまよひなてしこなとのいとあはれけなるえたともとりもてまいるきりのまよひはいとえむにそみえける吹くるおひ風はしをにこと　くにゝほふ空もかうのかほりもふれはひ給へる御けはひにやといと思ひやりめてたく心けさうせられてたちいてにくけれとしのひやかにうちをとなひてあゆみいて給へるに人〳〵けさやかにおとろきかほにはあらねとみなすへりいりぬ御まいりのほとなとわらはなりしにいりたちなれ給へる女房なともいとけうとくはあらす御せうそこけいせさせ給てさい将の君ないしなとけはひすれはわたくし事もしのひやかにかたらひ給これはたさいへとけたかくすみたるけはひありさまをみるにもさま　くにもの思ひいてらるみなみのおとゝにはみかうしまいりわたしてよへみすてかたかりしはなとものゆくゑもしらぬやうにてしほれふしたるをみたまひけり中将みはしにゐ給て御返きこえ給ふあらきかせをもふせかせ給ふへくやとわか　くしく心ほそくおほえ侍をいまなむなくさみ侍ぬるときこえ給へれはあやしくあえかにおはする宮なりをむなとちはものおそろしくおほしぬへかりつるよのさまなれはけにおろかなりともおほひつらむとてやかてまいり給ふ御な

をしなとたてまつるとてみすひきあけていりたまふにみしかき御木丁ひきよせてはつかにみゆる御そてくちはさにこそはあらめと思ふにむねつふ　くとなる心ちするもうたてあれはほかさまにみやりつとの御かゝみなとみたまひてしのひて中将のあさけのすかたはきよけなりなたゝいまはきひはなるへきほとをかたくなしからすみゆるも心のやみにやとてわか御かほはふりかたくよしとみ給へかめりいといたう心けさうし給て宮にみえたてまつるはゝつかしうこそあれなにはかりあらはなるゆへ　くしさもみえ給はぬ人のおくゆかしく心つかひせられ給そかしいとおほとかにをんなしきものからけしきつきてそおはするやとていて給ふに中将なかめいりてとみにもおとろくましきけしきにてゐたまへるを心とき人の御めにはいかゝみ給けむたちかへり女君にきのふ風のまきれに中将はみたてまつりやしてけんかのとのあきたりしによとのたまへはおもてうちあかみていかてかはさはあらむわたとのゝかたには人のをともせさりしものをときこえ給ふなをあやしとひとりこちてわたり給ひぬみすのうちにいり給ひぬれは中将わたとのゝとくちに人ゝのけはひするによりてものなといひたはふるれとおもふことのすち　くなけかしくてれいよりもしめりてゐたまへりこなたよりやかてきたにとをりてあかしの御方をみやりたまへははか　くしきけいしたつ人なともみえすなれたるしもつかひともそくさの中にましりてありくはらはへなとおかしきあこめすかたうちとけて心とゝめとりわきうへ給ふりんたうあさかほのはいましれるませもみなちりみたれたるをとかくひきいてたつぬるなるへしものゝあはれにおほえけるまゝにしやうのことをかきまさくりつゝはしちかうゐたまへるに御さきをふこゑのしけれはうちとけなへはめるすかたにこうちきひきおとしてけちめみせたるいといたしはしのかたについゐたまひてかせのさはきはかりをとふらひ給ひてつれなくたちかへり給心やましけなり

　おほかたにおきのはすくる風のをともうき身ひとつにしむ心ちしてとひとりこちけりにしのたいにはおそろしと思ひあかし給ひけるなこりにねすくしていまそかゝみなともみたまひけること　くしくさきなをひそとの給へはことにをとせていり給ふひやうふなともみなたゝみよせものしとけなくしなしたるに日のはなやかにさしいてたるほとけさ　くとものきよけなるさましてゐたまへりちかくゐ給ひてれいの風につけてもおなしすちにむつかしうきこえたはふれ給へはたえすうたてと思ひてかう心うけれはこそこよひの風にもあくかれなまほしく侍つれとむつかり給へはいとよくうちわらひ給ひて風につきてあくかれたまはむやかる　くしからむさりともとまるかたありなむかしやう　くかゝる

御心むけこそひにけれことはりやとのたまへはけにうち思ひのまゝにきこえてけるかなとおほしてみつからもうちゑみ給へるいとおかしきいろあひつらつきなりほをつきなといふめるやうにふくらかにてかみのかゝれるひま　くうつくしうおほゆまみのあまりわらゝかなるそいとしもしなたかくみえさりけるそのほかはつゆなむつくへうもあらす中将いとこまやかにきこえ給をいかてこの御かたちみてしかなと思ひわたる心にてすみのまのみすのき丁はそひなからしとけなきをやをらひきあけてみるにまきるゝものともゝとりやりたれはいとよくみゆかくたはふれ給けしきのしるきをあやしのわさやおやことききこえなからかくふところはなれすものちかゝへきほとかはとめとまりぬみやつけたまはむとおそろしけれとあやしきに心もおとろきて猶みれはゝしらかくれにすこしそはみ給へりつるをひきよせ給へるに御くしのなみよりてはら　くとこほれかゝりたるほと女もいとむつかしくくるしと思ふたまへるけしきなからさすかにいとなこやかなるさましてよりかゝり給へるはことゝなれ　くしきにこそあめれいてあなうたていかなることにかあらむおもひよらぬくまなくおはしける御心にてもとよりみなれおほしたて給はぬはかゝる御おもひそい給へるなめりむへなりけりやあなうとましと思ふ心もはつかし女の御さまけにはらからといふともすこしたちのきてことはらそかしなと思はむはなとか心あやまりもせさらむとおほゆきのふみし御けはひにはけおとりたれとみるにゑまるゝさまはたちもならひぬへくみゆるやえやまふきのさきみたれたるさかりに露のかゝれるゆふはへそふと思ひいてらるゝおりにあはぬよそへともなれとなをうちおほゆるやうよはなはかきりこそあれそゝけたるしへなともましるかし人の御かたちのよきはたとへんかたなきものなりけりおまへに人もいてこすいとこまやかにうちさゝめきかたらひきこえ給ふにいかゝあらむまめたちてそたち給ふ女君

ふきみたる風のけしきにをみなへしゝほれしぬへき心ちこそすれくはしくもきこえぬにうちすむし給ふをほのきくににくきものゝおかしけれはなをみはてまほしけれとちかゝりけりとみえたてまつらしとおもひてたちさりぬ御かへり

した露になひかましかはをみなへしあらきかせにはしほれさらましなよたけをみ給へかしなとひかみゝにやありけむきゝよくもあらすそひんかしの御かたへこれよりそわたり給ふけさのあさゝむなるうちとけわさにやものたちなとするねひこたちおまへにあまたしてほそひつめくものにわたひきかけてまさくるわか人ともありいときよらなるくちはのうすものいまやういろのになくうち

たるなとひきちらしたまへり中将のしたかさねか御前のつほせむさいのえんもとまりぬらむかしかくふきちらしてむにはなに事かせられむすさましかるへき秋なめりなとのたまひてなにゝかあらむさま　くなるものゝ色とものいときよらなれはかやうなるかたはみなみのうへにもおとらすかしとおほす御なをし花文れうをこのころつみいたしたるはなしてはかなくそめいて給へるいとあらまほしきいろしたり中将にこそかやうにてはきせ給はめわかき人のにてめやすかめりなとやうのことをきこえ給ひてわたり給ぬむつかしき方　くめくり給ふ御ともにありきて中将はなま心やましうかゝまほしきふみなとひたけぬるを思ひつゝひめ君の御かたにまいり給へりまたあなたになむおはします風にをちさせ給ひてけさはえおきあかり給はさりつると御めのとそきこゆるものさはかしけなりしかはとのゐもつかうまつらむとおもひ給へしを宮のいとも心くるしうおほいたりしかはなむひゐなのとのはいかゝおはすらむとゝひ給へは人〻わらひてあふきの風たにまいれはいみしきことにおほいたるをほと　くしくこそふきみたり侍しかこの御とのあつかひにわひにて侍なとかたること　くしからぬかみやはへる御つほねのすゝりとこひ給へはみつしによりてかみひとまき御すゝりのふたにとりをろしてたてまつれはいなこれはかたはらいたしとの給へときたのおとゝのおほえをおもふにすこしなのめなる心ちしてふみかき給ふむらさきのうすやうなりけりすみ心とめてをしすりふてのさきうちみつゝこまやかにかきやすらひ給へるいとよしされとあやしくさたまりてにくきくちつきこそものしたまへ

　風さはきむら雲まかふ夕にもわするゝまなくわすられぬ君ふきみたれたるかるかやにつけたまへれはひと　くかたのゝ少将はかみのいろにこそとゝのへ侍りけれときこゆさはかりの色も思ひわかさりけりやいつこのゝへのほとりの花なとかやうの人〻にもことすくなにみえて心とくへくもゝてなさすいとすく　くしうけたかしまたもかいたまうてむまのすけに給へれはおかしきわらはまたいとなれたる御すいしんなとにうちさゝめきてとらするをわかき人〻たゝならすゆかしかるわたらせ給ふとて人〻うちそよめきき丁ひきなをしなとすみつるはなのかほともゝおもひくらへまほしうてれいはものゆかしからぬ心ちにあなかちにつまとのみすをひきゝてき丁のほころひよりみれはものゝそはよりたゝはひわたり給ふほとそふとうちみえたる人のしけくまかへはなにのあやめもみえぬほとにいと心もとなしうすいろの御そにかみのまたゝけにはゝつれたるするゑのひきひろけたるやうにていとほそくちいさきやうたいらうたけに心くる

しをとゝしはかりはたまさかにもほのみたてまつりしにまたこよなくおひまさり給ふなめりかしましてさかりいかならむとおもふかのみつるさき　くのさくらやまふきといはゝこれはふちのはなとやいふへからむこたかき木よりさきかゝりて風になひきたるにほひはかくそあるかしと思ひよそへらるかゝる人ゝを心にまかせてあけくれみたてまつらはやさもありぬへきほとなからへたて　くのけさやかなるこそつらけれなと思ふにまめ心もなまあくかるゝ心ちすをは宮の御もとにもまいり給へれはのとやかにて御をこなひし給ふよろしきわか人なとこゝにもさふらへともてなしけはひさうそくともゝさかりなるあたりにはにるへくもあらすかたちよきあま君たちのすみそめにやつれたるそなか　くかゝる所につけてはさるかたにてあはれなりける内のおとゝもまいり給へるに御となあふらなとまいりてのとやかに御物かたりなときこえ給ふひめ君をひさしくみたてまつらぬかあさましきことゝてたゝなきになき給ふいまこのころのほとにまいらせむ心つからものおもはしけにてくちをしうをとろへにてなむはへめる女こそよくいはゝもち侍ましきものなりけれとあるにつけても心のみなむつくされ侍けるなとなを心とけす思をきたるけしきしてのたまへは心うくてせちにもきこえ給はすそのついてにもいとふてうなるむすめまうけ侍てもてわつらひ侍ぬとうれへきこえ給てわらひ給宮いてあやしむすめといふなはしてさかなかるやうやあるとのたまへはそれなんみくるしきことになむはへるいかて御らむせさせむときこえ給とや